

(7/28～29 三次ロイヤルホテル、畜技センター)

中国・四国地区登録委員研修会 十年ぶり広島県で開催



(社)日本ホルスタイン登録協会主催の平成二十三年度中四国登録委員研修会が開催され、中四国七県から五十四名が参加された。広島県での開催は十年ぶり。

一日目は三次ロイヤルホテルを会場に事務研修を行い、二日目は畜産技術センターを会場に審査研修が行われた。

初日の登録事務研修では栗田事務局長より平成二十四年四月から血統登録証明書の表示が変更になること等が報告された。乳用牛粗飼料利用性調査研究事業からの報告では千葉参与(同協

会)から「放牧への酪農への招待」と題して講演された。翌日の畜産技術センターでの審査研修では、広島県立総合技術研究所畜産技術センターから四頭の乳牛を審査対象牛として提供頂き、(社)日本ホルスタイン登録協会の池田課長が参加者にホルスタイン牛の見方を丁寧に解説された。その後、参加者は各自で実際に乳牛の審査を行い研鑽に励み、乳用牛改良の重要性を再認識された。



8/2 広酪

ようこそ サモア人留学生

サモアからの訪問

広島県の酪農情勢は？ 集乳業務の実態は？ 生乳検査体制は？

広酪は、帯広畜産大学へのサモア人留学生Tony Aiolupo【博士前期課程2年生(JICA長期研修員)】の研修訪問を受けてこれに応じた。

ナビゲータは、同大学院の浦島 匡農学博士(畜産学研究科食品衛生講座)。

サモアは、南半球ニュージーランド北東部に位置し、人口16万人余の国家である。

同国では、乳用牛飼育は産業としては無く、肉用牛が畜産業の柱とか。同留学生は、8月末に帰国予定で、その後は本国で肉用牛部門の管理指導に従事し、同大学で得た知識を活かされることになっている。

このほど広酪訪問では、事務所内の中国生乳販連三次生乳検査センターで同連の宇谷所長から牛群検定の生乳検査システムを説明、広酪では、組織概要と事業活動内容並びに、生乳需給調整施設のシステム等を西中参事、中山事業推進課課長があたった。



(酪農情勢ほか組合事業を学ぶ留学生ら：右2人)



(三次CSで説明を聞く留学生ら：左2人)